

たんぽぽ

咲いた

伊佐市の挑戦

⑥

# 学校選び揺れる親心

「大ちゃんを小学校に連れてってあげる」

近所の子どもの言葉に、下原暁子さん(37)の心が揺れた。長男大祐ちゃん(6)は、おしゃべりが苦手で、感情をうまく表現できない。6月、自閉症と診断された。

同じ団地の子どもたちと一緒に遊ぼうとはしない。でも、ニコニコとみんなを見守っている。みんなも「大ちゃん」が大好きだ。

大祐ちゃんは来春、たんぽぽを卒業する。出水市の出水養護学校小学部に入学させるつもりだ。「生活全般に手助けが必要な大祐には、養護学校が一番いい」と決めた。

でも……。「この子たちにお願いしたら、小学校で楽し

くやっついていけるのでは」。無邪気な子どもたちの笑顔に、心が揺れた。来春、たんぽぽから20人が巣立つ。通常学級、特別支援

学級、そして特別支援学校。三つの選択肢を前に、母親たちの心は今、揺らいでいる。

\*



たんぽぽのスタッフに抱き上げられ笑顔の大ちゃん。来春、たんぽぽを巣立つ

## 子どもの将来とことん話し合う

安徳直子さん(37)は昨秋、眠れない夜を何度も過ごした。

長女莉子ちゃん(6)は、2歳までに5回の外科手術を受けた。今も医療ケアが欠かせない。地元の小学校を見学した時、莉子ちゃんは飼育小屋にくぎ付けになった。「ウサギのお世話係になる」とはしゃいだ。

「莉子ちゃんが気後れすることなく、安心して『学校が楽しい』と感じられるところを選びましょう」。堀ノ内真理子園長(48)のひと言が背中を押した。出水養護学校を選んだ。

水色のランドセルを揺らし、莉子ちゃんが帰ってくる。「今日も楽しかったよ」。笑顔

顔がはじける。安徳さんは選択が間違いでなかったと実感する。

堀ノ内園長には苦い経験がある。養護学校への進学が最適と考えた園児がいた。両親は地元小学校にできた特別支援学級を選んだが、1年足らずで学校に通えなくなっ

た。「この子のためには」。今は、母親たちとことん話し合う。下原さんには、「大ちゃんが生活の基本を身に着けるために」と出水養護学校を勧めた。大祐ちゃんが将来、社会で自立できることを願って。

\*

たくさん流した涙。だから、きょう笑顔になれる。たくさん笑顔に囲まれて、92人のたんぽぽが可能性の花を咲かせる。(終わり。この連載は浦上太介、新屋敷さつき、浦郷明生が担当しました)